

総合資料館だより

2006.4.1 No.147



▲「草木寫生」(玉輪画)より

帆 掛 櫻

この絵の桜は下京十三校の後園にあると書かれています。下京十三校とは、明治2年に下京第十一番小学校として開校した京都市立開智小学校のことです。平成4年に廃校になりましたが、現在は京都市学校歴史博物館として活用されています。

画家名の玉輪とは、近代京都の代表的地誌『京都坊目誌』を記した碓井小三郎(1865~1928)が名乗っていた号の一つです。生糸商を営んでいた碓井は多才な人物で、京都市会議員、府会議員を長年勤める一方、名所・旧蹟の研究、和歌・国学を学ぶほか、画は望月玉溪に学んでいました。

目次	帆掛櫻	1	「京都北山アーカイブズ」さらに7,430点を追加	2
	「東寺百合文書」第3巻を刊行	3	平成18年度事業予定	3
	文献課の窓から「『旧分類』の図書」	4	歴史資料課の窓から「明治の京都藩邸処分」	5
	最近の収集資料から	6	府民講座のお知らせ、友の会事務局から 他	8

デジタルデータベース

「京都北山アーカイブズ」さらに7,430点を追加

「京都北山アーカイブズ」は、当館が所蔵する古写真や行政文書などの貴重な資料を一層活用いただくため、デジタルデータ化を行い、館内端末やインターネット上で公開しているものです。

外部の専門家とともに施策作りを行う「アクションプラン」の1つである「京の文化振興プラン」の主要事業として、平成15年度から実施しています。

この度、新しい資料7,430点を追加し、5月1日から公開します。

■従来の公開状況

15年度、16年度にデジタル撮影し、公開した資料は13,333点で、内訳は以下のとおりです。

- ①「黒川翠山撮影写真資料」(2,031点)
- ②「旧一号書庫写真資料」(786点)
- ③「琵琶湖疏水工事写真帖」(79点)
- ④「大正大禮京都府記事関係寫眞材料」(435点)
- ⑤「昭和大禮寫眞帖」(1,181点)
- ⑥「撮影鑑 二」(109点)
- ⑦「延喜式内並国史見在神社考証」(1,062点)
- ⑧「京都府管内地図」(1点)
- ⑨「社寺境内外区別取調」(7,200点)
- ⑩「社寺境内外区別原図」(449点)

■今回の追加公開資料

新たに14の資料群を追加しました。

◇古写真

「矢野家写真資料」(264点)

矢野豊次郎が撮影した京都の祭礼、風俗等の写真や、明治15年前後に撮影された京都の風景写真等を収集した資料

「武部正『関東大震災』写真資料」(34点)

武部正が収集した「関東大震災」の写真

「松尾建収集写真資料」(163点)

明治後期から大正時代にかけて、京都のアマチュア写真家が撮影したスナップ写真

◇御所・御陵絵図

「大内裏圖考證」(2,555点)

平安京内裏の構成、建造物等を考証した資料で、公家で有職故実家の裏松光世の著作。著者自筆本を含む。



▲矢野家写真資料
初代京都駅（七条駅）



▲大内裏圖考證 大嘗宮（三）

「大内裏圖考證（日野資矩筆写）」(1,132点)

日野資矩の筆になる「大内裏圖考證」の写本
「太政官廳圖考證・清紫兩殿圖・清涼殿之圖・諸寮所之圖」(79点)

大嘗会等の復興に尽力した、公家で有職故実家の高橋宗直の著作

「禁裏御指圖」(4点)

宝永5(1708)年に京都御所が造営される際の設計図

「諸陵周垣成就記」(99点)

元禄10(1697)年から幕府が行った諸陵の探索・垣設置事業の報告書に、事業の発端に関する記述を加え1冊としたもの

「御陵圖繪」(39点)

文化・文政年間(1804~29)における、歴代陵墓の踏査彩色見取図に解説を加えた絵巻物

「寶永度大内裏圖面・寶永度仙洞御所圖面・寶永度法王御殿圖面」(4点)

宝永5年の火事で焼失後、宝永6(1709)年に再建された京都御所の図面

◇社寺関係資料

「丹波丹後式内神社取調書」(41点)

「神名帳考証」をもとに、神社明細帳や豊岡県式内神社取調書などによって補訂・補註を行い、神社考証のために編纂された冊子

「社地画図」(853点)

明治3年に、京都府が管轄の各神社に指示して作成させた境内地略図

「寺地画図」(1,808点)

明治3年に、京都府が管轄の各寺院に指示して作成させた境内地略図

「御陵墓実測図」(354点)

京都府土木掛(課)が、明治初年から作成し管理してきた、実測図1冊及び御陵墓製図2冊

これらの資料は全て、館内の端末でご覧いただけます。是非お越しいただき、お気軽にご覧ください。(一部、調査研究目的に限ります。)

また、インターネット上でも、1,169点をサンプル版として、公開していますので、ご覧ください。

URL <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

「東寺百合文書」第3巻を刊行

当館では、所蔵している国宝・東寺百合文書の翻刻事業を行っています。昨年度、その第3巻を刊行しましたので、概要を紹介します。

この巻には「口函」61号から104号までの44点を取っており、そのほとんどが、このたび初めて活字化される新資料です。時期的には大永7(1527)年から永禄7(1564)年に至る、戦国時代のものです。内容は前巻同様、「口函」の特徴である仏事方の文書が大部分を占めています。

鎌倉時代以降、東寺の本来的使命である国家的法要に加えて、その興隆に力のあった公家・武家・僧侶の各層の実力者、弘法大師を頼って菩提を願う多くの庶民、これらの人々のために個人的な法会・供養が営まれるようになります。費用は、寄進された荘園や所領からの収入により賄われ、法要を行った担当者への報酬そ

他の必要経費が支出されます。それらの年間の収支を集計した決算書が仏事方算用状であり、長尺のものが多く、天文6(1537)年を始めとする4点だけで、第3巻全体頁数の7割を占めています。このほか、七祖御影供・塔婆尊勝陀羅尼・鎮守八幡宮五部大乘経など法会ごとの支配状(分配額の計算書)もあり、算用状とともに、会計規模や計算・監査の方法などが判ります。また、仏事ごとに収入の未進状況を書き上げたものが未進徴符であり、東寺の経済を支えた荘園からの収入が、この時期に至り、滞りを見せる様子が窺えます。

第3巻の概要

書名	東寺百合文書 三
内容	口函の一部 44点
規格	A5判
頁数	452頁
定価	9,500円(本体価格)
発行者	(株)思文閣出版
発行日	平成17年10月5日

平成18年度の事業予定について

当館の所蔵資料をより一層ご利用・ご活用いただくために、今年度も講座・展覧会を開催いたしますので、ご期待ください。

開催予定は次のとおりです。

◆講座

「総合資料館府民講座」は、歴史や伝統文化、館蔵資料紹介等のテーマで、年間8回程度開催する予定です。(4月の開催予定は8頁をご覧ください。)

「古文書解読講座」についても、実施時期は変わりますが、17年度と同様、「初心者コース」と「一般コース」を各2回ずつ開催する予定です。

なお、古文書の内容や解読についてのご相談をお受けする「古文書相談」についても、引き続き実施しますので、事前にお申し込みください。

◆展覧会

秋に恒例の「東寺百合文書展」、2～3月にかけては企画展を予定しています。また、夏には、普段目にしていただく機会の少ない収蔵品をご覧ください「収蔵品展」を開催する予定です。

これら各事業については、詳細が決まり次第、「総合資料館だより」、「府民だより」等のほか、当館のホームページでも順次ご案内しますので、奮ってご参加ください。

平成18年度 総合資料館の年間事業予定

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合資料館 府民講座	年間8回程度開催											
古文書 解読講座	初心者コース、一般コース(各2回)											
展覧会	収蔵品展			東寺百合文書展				企画展				

注：現時点での予定であり、変更することがあります。

「旧分類」の図書

総合資料館文献課の蔵書は、昭和38年の開館時に京都府立図書館の蔵書の大部分を引き継ぎました。その後、府立図書館は平成13年5月に全面改築され、文献課の蔵書のうち半数以上が図書館に移されました。

そのような中であって、文献課に残された図書の一群に「旧分類図書」と称されているものがあります。「旧分類」とは、文字どおり図書を分類する方法で、現在文献課を始めとして日本の多くの図書館が使用している「日本十進分類法(NDC)」に対して、それ以前に用いられていた分類法である「京都図書館和漢図書分類」を指します。その古い分類法で分類された図書群を「旧分類図書」と呼んでいます。

分類としての旧分類は、府立図書館で昭和25年まで使われていました。『京都府立図書館沿革誌』によれば、アメリカ留学経験から学んだ湯浅吉郎館長によって、明治37年から39年にかけて制定されたものです。旧分類は、現在使用されているNDCと同じく十進分類ですが、下表のように医学が大項目として独立していること、歴史地誌が9に分類されていることなど、NDCとは多少異なっています。なお、京都に関する図書は、9 歴史・地誌の中に「99京都」としてまとめられています。

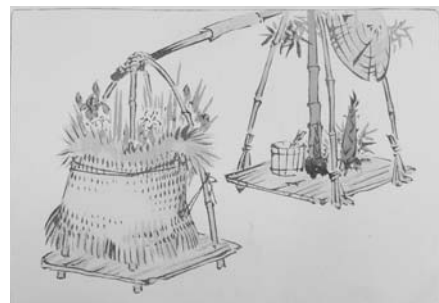
さて、旧分類図書群は、さらに「和」「洋」「特」に区分されます。「和」は主として江戸時代以前の袋綴じ等によって装丁された図書、いわゆる和漢書などと称されるものであり、「洋」

旧分類	NDC
0 叢書・自彙	0 総記
1 哲学・教育	1 哲学
2 宗教・神道	2 歴史
3 社会・産業	3 社会科学
4 法政・経済	4 自然科学
5 理学・工学	5 技術・工学
6 医学	6 産業
7 美術・工芸	7 芸術・美術
8 文学・語学	8 言語
9 歴史・地誌	9 文学

は近代製本技術によって装丁された図書です。「特」はこれらとは区分概念を異にし、稀少価値のある図書や高価な図書などで

あり、装丁としては和装洋装両方を含んでいます。このうち、「洋」は上記の改築時に約40年ぶりに府立図書館に帰りましたが、「和」「特」はそっくり文献課に残され、その数は、5万冊を超えています。

その中には、『史記』『平家物語』など和漢の著名な古典籍も多く含まれており、『国書総目録』（岩波書店）に京都府所蔵となっているものは、これら文献課の蔵書を指します。旧分類図書には所蔵者の蔵書印が捺されているものが多く、かつて、この『資料館だより』の中で取り上げたもの以外にも、広橋家・柳原家など旧公家の蔵書印や寺院の蔵書印、個人の蔵書印を有する図書もあり、府立図書館蔵書になる前の所蔵者などを知ることができる興味深いものです。また、明治40年に府立図書館に設置された図案室の蔵書を引き継いだと思われる美術工芸関係の図書は充実しており、『はながた』『懸賞友仙図案』などの図案集・文様集や彩色の美しい『花くらべ』（上図）など見ていても楽しいものです。



文献課の図書の大部分は電子目録化され、府立図書館のシステムを通じてインターネットでも公開されています。しかし、旧分類の図書については、「特」の一部や京都資料を除き電子目録化できていませんので、館内のカード目録で検索していただいております。なお、「洋」を含めた旧分類図書の全体像は『京都図書館和漢図書分類目録』によって知ることができますので、カウンターでお尋ねください。

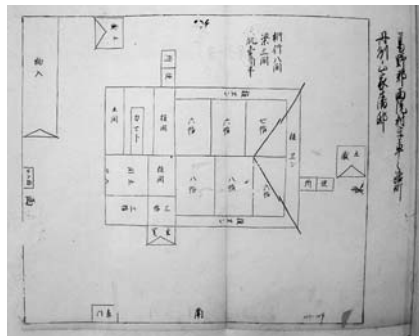
現代の図書に比べると使われることが少なくなっている旧分類図書ですが、時には思わぬ発見があるかもしれません。

明治の京都藩邸処分

江戸時代末期、京都の市中には全国諸藩の藩邸が数多く存在していました。これは、幕末の政治状況の中で京都が重視されるようになり、江戸・大阪に次いで京都市中にも藩邸を必要とする藩が増えたためです。現在の同志社大学の付近にあった薩摩藩邸や京都ホテルオークラの付近にあった長州藩邸など大藩の藩邸に混じって、京都府域の9藩もそれぞれ藩邸を置いていました。こうした藩邸はその後どうなってしまったのでしょうか。

明治時代になって中央政府が東京に置かれると、京都にあった藩邸は急速にその必要性を失うこととなりました。財政難に苦しむ諸藩では複数ある藩邸の管理に手が回らなくなり、明治2年頃には京都・大阪の藩邸の多くが荒れるに任せた状態となっていたのです。折しも富国策の一環として開拓に躍起になっていた明治政府は、京都府からの建言を容れて、明治3年2月、そうした藩邸の再開発を命じる太政官布告を發布しました。この布告は、「京都ニ有之候諸藩之邸宅地所、近来往々荒蕪ニ相成候場所不少趣、右ハ全ク地力ヲ廃棄シ候儀ニ付、不用之向ハ桑茶等植付地力ヲ尽候様可致、不及其儀分ハ売払候歟、又ハ上地致候歟、孰レトモ取極、早々京都府へ可申出事」という内容のもので、藩邸内に桑茶等の農作物を植えることで土地を有効に活用し、またそれが不可能な場合は土地自体を売り払うか政府へ上納するか、いずれかの対処を早急に行うように命じています。つまり、使用されていない土地を公共のために用い、富国政策の一端とすることが政府のねらいだったようです。また一方で、京都の町組からも土地利用の要望が京都府に寄せられていました。

これを受けて、各藩それぞれの対応が京都府に届けられました。京都府庁文書中の「諸藩邸上地件」(明3-19)には、全国約300藩にも及ぶ当時の届が綴じられています。各藩の対応はやはり一様にはいかなかったようです。府域の藩を例にとってみると、亀岡・綾部・峰山では、布告に従い空き地に桑茶を植え付けるという届を出しており、舞鶴では既に菜園としていることを届けています。しかし一方で、園部・山家・福知山からは、特に荒蕪の地はない(布告の趣旨は当藩邸とは関係ない)という届け出がなされただけで、全体的にみても初めか



▲山家藩邸図(「旧藩々邸奉還並売却件」より)

ら売り払いや上納に応じた藩はほとんどありませんでした。その結果、空き家のような藩邸地が多くなっていったようで、この後も何度か開墾の布達が出されています。

こうした各藩邸それぞれの対応に不都合を感じた政府は、明治5年正月、諸藩邸を全て現状のまま上邸することとする太政官布告を出しました。これにより、各藩邸の受け取りにあたることとなった京都府が、同年5月、政府租税寮に上邸の経過報告をした文書が、京都府庁文書「旧藩々邸奉還並売却件」(明4-27-1)の中に残されています。ここには、綾部・舞鶴を含む全国で41の藩邸が上邸済みと記されており、それぞれの藩邸地はその後、一部が「御用邸」として勸業場等に利用されましたが、他は全て入札等により民間へ払い下げられることとなりました。一方この時、上邸未済とされた福知山を含む13邸も「上邸御達後夫々及掛合置候得共、未何等之返答無之、追而可請取分」と注記されており、おそらく前の41邸と同様に、最終的には民間へ渡ったものと思われます。また、断片的な資料しか残されていないため、各藩邸ごとの経過を追うことはできませんが、ここに記された54邸以外の藩邸は、これ以前にそれぞれ借金返済等のため譲渡・売り払いがされていたようです。こうして京都に数多く存在した藩邸は、明治の開拓ブームの中で姿を消していったのです。

現在、園部藩邸(下京区・醒ヶ井通松原下ル)・亀岡藩邸(下京区・新町通松原東入ル)の跡地は小・中学校となり、峰山藩邸(中京区・烏丸通夷川上ル)は京都新聞社、福知山藩邸(下京区・烏丸通綾小路上ル)は銀行と、それぞれの跡地は様々なかたちで活用されています。こうした跡地を訪ねて、数多くの諸藩がひしめいた幕末京都の賑わいに思いを馳せてみるのもいいかもしれません。

(歴史資料課・行政文書担当 磯航)

最近の収集資料から (平成17年12月～平成18年2月)

◆図書資料

<京都>

京都読書空間 桜風社編 光村推古書院 2005 111p

京都YMCA史 京都YMCA史編さん委員会編 京都キリスト教青年会 2005 31, 652p 寄贈

それは京都ではじまった 黒田正子著 光村推古書院 2005 313p

伏見の現代と未来 聖母女学院短期大学伏見学研究会編 清文堂出版 2005 250p (京・伏見学叢書) 寄贈

京北町五十年誌 京北町[編]刊 2005 1055, 60p 寄贈

新・宮津風土記 ふるさとの宝物 美しさ探検隊編 宮津市 2005 1冊 寄贈

たかが京都されど京都 京都「よそゆき」文化論考 ばんばとしあき著 丸善京都出版サービスセンター(制作) 2005 279p 寄贈

京都発地域教育のすすめ 学校がかわる地域がかわる 京都市教育委員会地域教育専門主事室編 ミネルヴァ書房 2005 221p 寄贈

戦後公教育の成立 京都における中等教育 小山静子編 2005 16, 414p

御雇外国人 J.A.ウィードの六年間 京都府農牧学校物語 拝師暢彦著 京都新聞出版センター(制作) 2005 183p 寄贈

男山で学ぶ人と森の歴史 八幡市教育委員会編刊 2005 93, 92, 15p

京都観光学のススメ 井口和起著 人文書院 2005 185p 寄贈

大徳寺塔頭聚光院 聚光院編 淡交社 2005 222p

京都の人形浄瑠璃 亀岡市制五十周年記念 亀岡市文化資料館編刊 2005 40p 寄贈

谷崎潤一郎の京都を歩く 河野仁昭文 淡交社 2005 127p (新撰京の魅力) 寄贈

都名所畫譜 上・下巻 青木恒三郎編 青木嵩山堂 1894 2冊

八坂の塔や宇治の鳳凰堂など、京都名所63カ所の彩色版画集です。円山応挙や幸野樸嶺など、江戸後期から明治初期に京都を中心に活躍した画家の作品が集められています。



京都電話番号簿 明治45年5月15日現在、大正3年5月改、大正8年6月改 京都中央電話局[編]刊 3冊

今回3冊の電話帳が入ったことにより、総合資料館で閲覧できる明治・大正期の電話帳は明治41、45、大正2、3、8、15年となり、より詳しく調査していただけるようになりました。



<人文>

個人文庫事典 1(北海道・東北・関東編)・2(中部・西日本編) 日外アソシエーツ編刊 2005 2冊 寄贈

和本入門 千年生きる書物の世界 橋口侯之介著 平凡社 2005 254p

図書館・情報学研究入門 三田図書館・情報学会編 勁草書房 2005 6, 226p

日本の植民地図書館 アジアにおける日本近代図書館史 加藤一夫・河田いこひ著 社会評論社 2005 404p

図書館が危ない! 運営編・地震災害編 鍾水三千男・神谷優著 エルアイユエ 2005 2冊

図書館と著作権 名和小太郎・山本順一編 日本図書館協会 2005 238p

博物館学ハンドブック 高橋隆博・森隆男編著 関西大学出版部 2005 148p

日本博物館成立史 博覧会から博物館へ 椎名仙卓著 雄山閣 2005 234p

鎌倉幕府成立史の研究 川合康著 校倉書房 2004 510p

蒲生氏郷 戦国を駆け抜けた武将 滋賀県立安土城考古博物館編刊 2005 114p 寄贈

戦国期発給文書の研究 印判・感状・制札と権力 片桐昭彦著 高志書院 2005 302, 10p

百姓一揆事典 深谷克己監修 民衆社 2004 667p

近世出土漆器の研究 北野信彦著 吉川弘文館 2005 394, 10p

日本古代寺院造営氏族の研究 小笠原好彦著 東京堂出版 2005 577, 11p

日本陸海軍総合辞典 第2版 秦郁彦編 東京大学出版会 2005 778p

日本の博覧会 寺下勅コレクション 橋爪紳也
監修 平凡社 2005 237p

完全踏査古代の道 畿内・東海道・東山道・北陸
道 武部健一著 木下良監修 吉川弘文館
2004 246p

完全踏査古代の道 続 山陰道・山陽道・南海
道・西海道 武部健一著 木下良監修 吉川弘
文館 2005 10, 283p

仏教美術と歴史文化 真鍋俊照編 法藏館
2005 17, 649p

中国書道辞典 第2版 中西慶爾編 木耳社
2005 1140, 51p

公家茶道の研究 谷端昭夫著 思文閣出版
2005 10, 377, 16p

安井仲治 写真のすべて 安井仲治撮影 共同
通信社 2004 321p 寄贈

桃山陶の華麗な世界 愛知万博記念特別企画展
愛知県陶磁資料館 2005 371p 寄贈

*チェスター・ビーティー・ライブラリィ絵巻
絵本解題目録 解題篇・図録篇 国文学研究資
料館編 勉誠出版 2002 2冊 寄贈

*鈴木春信絵本全集 改訂新版 藤沢紫編著
勉誠出版 2003 3冊 寄贈

*河鍋暁斎画集 六耀社 1994 3冊 寄贈

*東山魁夷全作品集 求龍堂 2004 501p 寄
贈

*古墨 徳川美術館蔵 しこうしゃ図書販売
1991 363, 15p 寄贈

*蒔絵漆芸 細川家伝来 荒川浩和編 京都書
院 1988 281p 寄贈

*名物裂 京都国立博物館蔵 上・下巻 京都
国立博物館編 紫紅社 1978~1979 2冊 寄
贈

*伝統の染和紙 標本編・解説編 吉岡常雄著
紫紅社 1977 2冊 寄贈

*類聚雑要抄指図巻 川本重雄編 中央公論美
術出版 1998 389p 寄贈

*中世聖徳太子伝集成 慶應義塾大学附属研究
所斯道文庫編 勉誠出版 2005 5冊 (斯道
文庫古典叢刊) 寄贈

*印の資料は、財団法人京都高等学校から御寄贈い
ただきました。

〈官庁〉

三峠・京都西山断層帯に関する調査成果報告書
平成16年度地震関係基礎調査交付金 京都府編
刊 2005 3冊

平成16年台風第23号災害の記録 京都府総務
部防災室編刊 2005 151p

平成16年10月20日から
21日にかけて、京都府を
通過した台風第23号は、
府内に甚大な被害をもた
らしました。本書は、こ
の災害の概要をまとめた
もので、防災対策の参考
として刊行されたもので
す。



アカマツ林の実態調査 続 京都府農林部編著
刊 1961 223p 寄贈

復旧治山(調査委託)事業報告書 京都府京都市
左京区修学院音羽谷地区 昭和48年度 京都府
治山課編 国土防災技術 1973 102p

京都府林業統計 平成17年版 京都府農林水産
部林務課編刊 2005 201p

京都市立音楽短期大学設置認可申請書 京都市
[編]刊 1951 1冊

園部町農業委員会50周年記念誌 園部町農業
委員会広報委員会編刊 2005 10p 寄贈

大江町新市移行記念誌 大江伝 昭和26年~平
成17年 大江町総務企画課編刊 [2005] 117p
寄贈

移住関係資料 外務省移住局[編]刊 [1963~
1964] 1冊
※移住関係資料を資料館において製本したも
の。

新賃金傾向値表 産業別 規模別 男女別 学歴別
2006年版 厚生労働省統計情報部編 労務行政
2005 262p

自殺予防に関する調査結果報告書 総務省行政
評価局編刊 2005 279p 寄贈

エネルギー白書 2005年版 経済産業省編 ぎ
ょうせい 2005 366p

建築統計年報 平成17年度版 国土交通省総合
政策局情報管理部建設調査統計課監修 建設物
価調査会 2005 1189p

小企業の経営指標 建設業、製造業 2005 国民
生活金融公庫総合研究所編 中小企業リサー
チセンター 2005 44, 334p

食品流通段階別価格形成調査報告 青果物経費
調査及び水産物経費調査 平成16年 農林水産
省大臣官房統計部編刊 2005 119p 寄贈

航空輸送統計年報 平成16年 国土交通省総合
政策局情報管理部編 全日本航空事業連合会
2005 768p

臨時休館のお知らせ

所蔵資料の点検・整理のため、次のとおり臨時休館します。ご理解とご協力をお願いいたします。

◆休館期間

5月15日(月)～5月26日(金)

古文書相談のご案内

○ 古文書の内容や解説についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問い合わせください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834

総合資料館府民講座のお知らせ

◇ 4月14日(金) 午後2時～

黒川直則(当館元次長)

演題「与謝野寛・晶子夫妻と小林政治
(天眠) ー生涯を通じての畏友としてー」

受講ご希望の方は、受講希望日、住所、氏名、電話番号を明記し、3日前までに、はがき、FAX又はメールでお申し込みください。

*満席で受講をお断りする場合があります。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館 庶務課

TEL 075-723-4831 FAX 075-791-9466

メール shiryokan-shomu@mail.pref.kyoto.jp

日誌(平成17年12月～平成18年2月)

11.1(火)～12.4(日) 第20回東寺百合文書展

12.15(木) 府民講座(第30回)開催

1.24(火) 第4回古文書解説講座

(初心者A・B)

1.25(水)～27(金) 第4回古文書解説講座

(初心者A)

1.31(火)～2.2(木) 第4回古文書解説講座

(初心者B)

2.14(火)～2.17(金) 第4回古文書解説講座

(一般A)

2.21(火)～2.24(金) 第4回古文書解説講座

(一般B)

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)

【4月～6月の休館日】

4月12日(水)、4月29日(祝)、5月3日(祝)
～5月5日(祝)、5月10日(水)、5月15日(月)
～5月26日(金)、6月14日(水)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、⑧ 北山駅前下車
京都バス⑳、④⑤、④⑥ 前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

友の会事務局から

◎ 平成18年度の友の会は、3月7日現在で304人の方にお申し込みいただいています。

友の会にご入会いただきますと、資料館だよりや古文書解説講座の案内をお送りし、また、現地講座やバス旅行などにご参加いただけます。

随時申込みを受け付けています。多数の方の入会をお待ちしております。

問合せ先：友の会事務局

(当館庶務課内 TEL 075-723-4831)

発行 京都府立総合資料館

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4

TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています